

第23回 福岡アジア美術館
アーティスト・イン・レジデンスの成果展 2024

周縁からはじまる

作家の言葉

レジデンス滞在中、私は謄写版、あるいはガリ版の起源と用途について、集中してリサーチを行いました。ガリ版はとてもシンプルかつ携帯可能な印刷道具です。ブリーフケースの形状をした入れ物のなかには、メッシュの張られた枠とローラーが1本入っています。重さはたった2、3キロで、持ち運びも楽です。この印刷道具は1894年に滋賀県の堀井新治郎によって発明されました。ガリ版について深く知るために、私は大東化工株式会社の謄写技術資料館を訪ねる機会を得ました。ここは謄写印刷に用いる原紙を長年製造されてきた会社です。資料館の豊富な展示資料からは、ガリ版や原紙の開発過程や歴史を学ぶことができ、またそれら製品の用途を理解することを通じて、日本の政治史においても重要な視点を得ることができました。

私のリサーチにとって欠かせないもう一つの側面は、ガリ版印刷を実際に今でも使っている、福岡近郊を拠点とするアーティストと出会い、お互いのネットワークを作ることでした。

このアーティストたちと一緒にワークショップを開催し、参加した作家や学生たちそれぞれがガリ版を使って作品を制作しました。

このプロジェクトの結果は、「ガリ版オタクの会」と題し、アーティストカフェフクオカのスタジオに教室の設えを活用したインスタレーションとして展示されています。作品は、100年以上にもおよぶガリ版の歴史の一端を理解するための、こだわりの強い探求心を示すものです。

ブルーノ・ルイス

《ガリ版オタクの会》

ミクストメディア / サイズ可変 / 2024年

- 《世界中の地下出版を可能にする謄写版》
黒板、チョーク(ドローイング2点) / サイズ可変
- 《ガリ版コデックス(絵文書)》(S氏との共同制作)
檜、電熱ペン、顔料 / サイズ可変
- 《共同展示(ワークショップでの制作作品) ガリ版・ギャラリー》
ガリ版印刷 / サイズ可変
- 《ガリ版旅行記》
映像、冊子